

三週間の研修を終えて

碧南市民病院

まず新城市に来て思ったことは碧南市とあまり変わらなそうという事でした。むしろ新城市民病院の方が見た目も大きそうで、碧南とほとんど内容は同じ様な事をやればいいだろうと思っていました。自分ももう2年目だし、碧南ではある程度やれていると思っていたので、いつも通りにやればある程度出来るだろうと考えていました。しかし実際は全く内容が違い、自分のやってきた事だけでは全然何も出来ていない事に気づかされ、とても勉強になりました。碧南市民病院では救急外来を一人でまわさなければいけないので、患者の問診も手早く必要な情報のみを聞き出し、なるべく早く終わらせるようにする事に気を使っていました。診察もほとんどの場合、症状がある場所を診察し、緊急性がなさそうだと帰宅、少し緊急疾患が疑わしければすぐに検査をオーダーし、その間に次の人を診て早く患者を診る事を最優先にしていました。なのでバイタルサイン、見た目で緊急性のある疾患を早く判断し、検査も最短でおこない、本当に緊急疾患であった場合にはすぐに上級医にコンサルトする事がいいことだと考えてしまいがちでした。実際そうしないと緊急性のある患者がいた場合、外来がパンクしてしまったり、同時に救急車を4台対応しないといけない様な状況も多々あるので緊急のある患者を放置してしまうなどが起こってしまうので、だいたいの問診、診察ですぐに上級医に引き渡し、残りの患者を素早く診るという事はある程度出来る自信がありました。しかし新城市民病院では総合診療科として救急外来のように色々な科の患者さんが来る中で緊急性の判断のみではなく、実際に診断、治療をおこなうための問診、身体診察を重視しての診察を求められました。そしてそれに対する振り返りが毎日あり、一つ一つ指摘されました。正直自分のカルテをきっちり指摘された事はほとんどなく、初めて自分のカルテの情報量の少なさ、自分の鑑別診断に対する適切な問診がいかにとれていないかという事を思い知らされました。自分では出来ていたつもりでも今までは機械のようにとりあえず緊急性のある疾患を否定するために何となくの検査、オーダーがいかに多く、また問診もなんとなく聞いていたかをはっきりわかりました。また、他の病院の研修医も同じ時期に回る事ができ同じ学年の研修医の問診内容、身体診察の取り方、知識量など自分との比較が出来、とても有意義な研修をおこなう事が出来ました。将来内科医を目指している僕にとってはものすごくいい研修になり、今後やらなければならない事が少

し見えた気がします。この研修の経験を生かし、自分のステップアップまたより良い医療を患者さんに提供できる様な医師になれるよう努力したいと思えます。指導医である中村先生をはじめ新城市民病院の先生方にはとてもお世話になりました。ありがとうございました。